

女子大学生の 公的・私的自己意識が 化粧行動に及ぼす影響

奈良女子大学 生活環境学部 生活文化学科

4回生 学籍番号07461384

田川 裕希



目的

- 公的自己意識・私的自己意識と、「スキンケア」「メイクアップ化粧」2つの化粧行動の関係について調べる。
- 化粧行動と対人積極性の関係を確かめる。





公的自己意識

身体や服装、身振りなど
他者から容易に見られる

自己の外見に関する意識

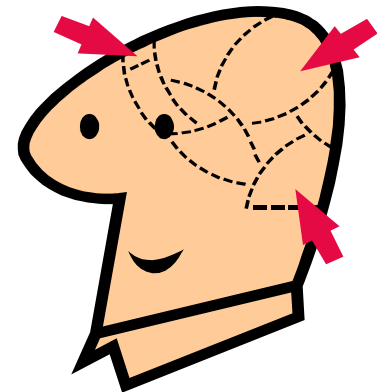
- 他者の基準にそった行動をしようとする
- 自己の印象操作の有効性を気にする
- 他者の評価に不安や恐怖を抱きやすい

私的自己意識

感情や態度、考えなど
他者は直接知ることができない

自己の内面に関する意識

- 理想自己に従った行動をしようとする
- 自己の気持ちや感情を明瞭に意識する
- 心身の不調などを敏感に感じる



方法

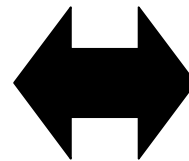
- 女子大学生を対象に、質問紙によるアンケート調査を実施
- 調査時期：2010年7月～9月
- 125人に配布し103部回収
- 有効回答数は100部であった



結果①スキンケア

自己意識と化粧行動の相関分析を行った。
その結果、私的自己意識と
スキンケアの頻度、用品数、回数に
正の相関が見られた。

私的自己意識

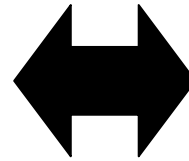


頻度
用品数
回数

結果②メイクアップ化粧

相関分析の結果、公的自己意識と
頻度、回数、金額に正の相関が見られた。

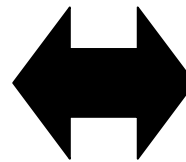
公的自己意識



頻度
回数
金額

また、私的自己意識と
頻度、回数、金額に正の相関が見られた。

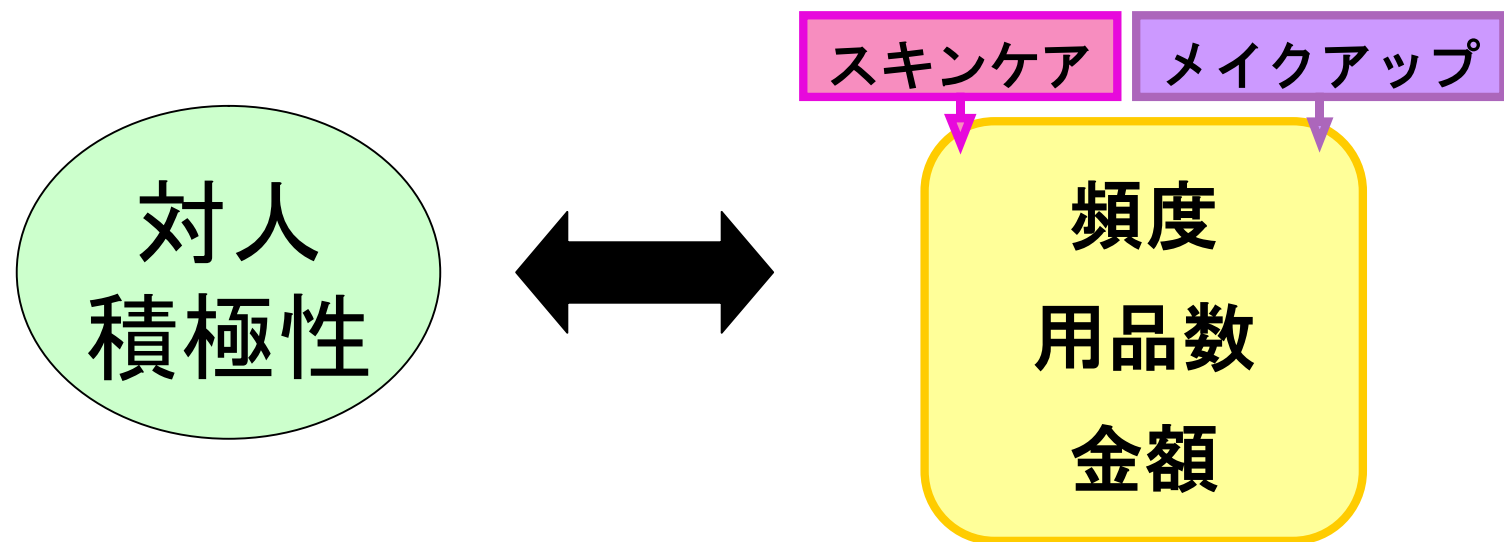
私的自己意識



頻度
回数
金額

結果③対人積極性

相関分析の結果、対人積極性と
スキンケア・メイクアップ化粧の
頻度、用品数、金額に正の相関が見られた。



考察①スキンケア

結果より、私的自己意識の強い人ほど
スキンケアをよく施す傾向があると思われる。

スキンケアの実施

自身はわかる

他者からは
わかりにくい

よって、スキンケアを施すかどうかは
自己の満足や心身への敏感さが影響を及ぼす
と考えられる。

考察②メイクアップ化粧

結果より、公的自己意識の強い人
あるいは、私的自己意識の強い人ほど
メイクアップをよく施す傾向があると思われる。

メイクアップの実施

自身はわかる

他者から
わかりやすい

よって、メイクアップ化粧を施すかどうかは
他者が自身を見る視点、あるいは、
自分自身を見る視点への敏感さが影響を及ぼす
と考えられる。

考察③対人積極性

結果より、スキンケアまたはメイクアップ化粧をよく施す人ほど、対人関係において積極的だと思われる。



さいごに

本研究では自己意識と化粧行動の関係に注目したが、ほかにも以下のもので化粧行動が変化するとわかった。

- 肌に自信があるか
- 素顔に自信があるか
- 化粧をした顔が好きであるか

本研究より、自己意識と化粧行動はそれぞれの特徴や効果の表れ方が対応すると考えられる。

また、化粧をよく施す人ほど対人関係において積極的だと思われる。化粧を有効に活用したい。